

「日本脳炎ワクチン」接種を受けましょう！

昨年(平成17年)5月30日、厚生労働省から突然、「日本脳炎ワクチン接種を積極的には奨めないこと」という通達がありました。一昨年、日脳ワクチンを受けた中学生が、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)で重症になったことを国が重要視したための措置でした。従って、現在日本では「日脳ワクチン接種」は実質的に中止状態です。

日本脳炎は脳に障害をもたらす重篤な病気で、死亡率は20%、後遺症は45~70%という危険性の高い感染症です。

日本ではワクチンの定期接種により1966年の2,017人をピークに徐々に減少し、1992年移行は毎年10人以下です。

但し、1991年には沖縄北部で演習を行なった米兵が、日本脳炎に罹患しており、その後数人の患者が出ています。米国は現在、沖縄を含む東アジアに展開する米国軍人・軍属に対して、「日本脳炎ワクチン接種」をむしろ奨めています。

日本脳炎ウィルスの存在は、増幅動物であるブタの日本脳炎ウィルス抗体価の上昇から推測されます。**実際、8月24日の琉球新報と沖縄タイムスに「日本脳炎の注意報発令」が載りました。**8月14日実施のブタの感染状況調査で、北部の25頭すべてで陽性を確認したという事です。

「日本脳炎ワクチン」は年間約400万人に接種されていました。平成3年以降

14例のADEMの報告があり、その内5例が重症でした。単純計算で400万人に1人(重症は1,000万人に1人)という副反応の低いワクチンです。

厚労省は昨年、「今年7月までには副反応がより少なく、安全なワクチンを提供する」と言っていたましたが、最近になってこのワクチンの開発が遅れ、2~3年後になるという事実が判明しました。

ワクチンの副反応ばかりが問題視され、もし今後流行したら国民への不利益はもっと拡大すると思われます。1970年代にDPT(三種混合ワクチン)が副反応のため一時的に中止された時、それまでほとんどなかった百日咳が、その後の5年間で大流行し、150人の子供たちの尊い命が失われました。

予防接種の副反応と接種しないで実際にかかる危険性と、常に天秤にかけて個人の責任でワクチン接種を選択しなくてはなりません。「あなたのお子さんはどうします？」
たまなほ

